

患者入院支援・周術期管理チームにおける 薬剤師の関わり

小山 朋子[†]第72回国立病院総合医学会
(2018年11月10日 於 神戸)

IRYO Vol. 75 No. 3 (233-237) 2021

要旨

急性期病院では、年々入院期間は短縮する傾向にあり、手術の前日入院、当日入院も増加傾向にあるが、入院後の限られた時間の中で患者のアセスメントを十分に行うことは困難である。そこで外来系スタッフを含めた多職種、多部門スタッフが協働し周術期管理チームとして周術期患者管理を行うことが求められている。また、周術期に注意を要する薬剤のなかには、経口避妊剤のように4週間前からの中止を要する術前中止薬もあり、薬剤師による早い段階からの介入による手術予定患者の薬学的管理も重要視されてきている。国立病院機構福山医療センター（当院）においても、2018年1月から「患者入院支援・周術期管理チーム」を立ち上げ外来から退院までの一貫したサポートを開始した。チーム医療における薬剤師の役割、保険薬局との薬業連携や今後の展望について紹介する。

キーワード 術前中止薬, 薬業連携, チーム医療

病院概要

国立病院機構福山医療センター（当院）は、34診療科を有する366床の第二次救急医療指定病院（平成30年11月現在）であり、薬剤部には薬剤師22名、調剤助手5名が所属している。いわゆる大規模病院ではないが、さまざまなチーム医療活動が盛んにおこなわれており、薬剤部からも人員を配し業務の一端を担っている。

背景

現行の医療制度下においては、入院期間はできる

限り短縮する必要がある。当院においても例外ではなく、年々入院期間は短縮傾向にあり、手術の前日入院や当日入院など、入院から手術までに関わることができる時間も非常に短くなってきている。それによって、入院前の既往症のコントロールが不十分な例や、検査データのチェックもれ、退院調整に時間を要し入院日数が延長してしまうといった問題が発生していた。

また、術前中止薬には経口避妊剤のように4週間前からの中止を要する薬剤もあり¹⁾、早期からの常用薬の評価が必要である。近年の後発医薬品使用推進や配合剤の増加により、医師や看護師のみでは、限られた診療時間内で、商品名から術前中止薬を的確

国立病院機構福山医療センター（現所属：国立病院機構関門医療センター）薬剤部 [†]薬剤師
著者連絡先：小山朋子 国立病院機構関門医療センター 薬剤部 〒732-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号
e-mail: koyama.tomoko.ht@mail.hosp.go.jp
(2019年5月7日受付, 2020年5月8日受理)

Pharmacist's Role in Patient Admission Support & Perioperative Care Team (PASPORT)
Tomoko Koyama, NHO Fukuyama Medical Center (NHO Kanmon Medical Center)
(Received May 7, 2019, Accepted May 8, 2020)

Key Words: preoperative withdrawal medicine, collaboration between hospital and community pharmacists, team medical care

表1 手術に係る薬剤関連インシデント事例

(2015年8月～2018年8月報告分)

薬効分類	薬品名	件数
抗血小板薬	リマプロスタアルファデクス	5
	アポノール®	1
	ベラプロストナトリウム	1
	ニセルゴリン	1
	サアミオン®	1
	プロレナール®	1
	エパデール®	1
	ロトリガ®	1
抗凝固薬	リクシアナ®	1
	ラロキシフェン	1
女性ホルモン作用薬	エビスタ®	1
	ビビアント®	1
	ファボワール®	1
メトホルミン	メトホルミン	1
	メトグルコ®	1
その他	ヘマンジオルシロップ®	2

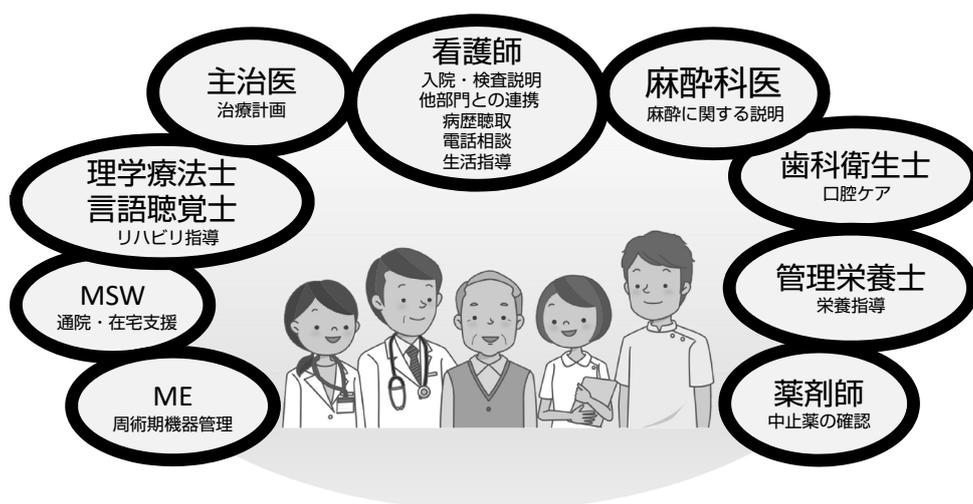


図1 PASPORTの構成員とその役割

に識別することが困難な場合も多く、医療安全の観点からも薬剤師の関わりが重要であると考え¹⁾。表1は当院における手術に関わる薬剤関連インシデント事例をまとめたものである。後発医薬品の見落としや、薬効別では女性ホルモン作用薬やメトホルミン等の認識が低いことがわかった。これらの薬剤の継続が原因で手術が延期となる事例も発生し、入院前からの関わりが求められ、チームで取り組むこととなった。

患者入院支援・周術期管理チーム (PASPORT) の設置

当院では、東海大学医学部附属病院の「PFM (Patient Flow Management)」, 岡山大学病院の「PERIO(Perioperative Management Center)」の取り組みを参考にワーキンググループを立ち上げ、2018年1月より患者入院支援・周術期管理チーム (Patient Admission Support & Perioperative Care Team : 通称PASPORT) を正式稼働し、周術期患者の外来から退院までの一貫したサポートを開始した。肝胆膵外科より開始し、消化器内科, 呼吸器外



図2 PASPORTにおける薬剤関連業務

■口手術・検査前における中止薬等指示票口■

ID: 0009900027
患者カナ: テスト O27
患者氏名: テスト O27
診療科: 内科
主治医:

手術及び検査日: 2018年10月20日

【抗血栓薬等の指示内容】

薬品名	参照休業期間*	中止の有無	中止日数指示	中止日*
オバルモン	(参照1日)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	1 日前より中止	2018年10月19日
オグルコ	(48hr)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	2 日前より中止	2018年10月18日

主な薬剤（抗血小板薬、抗凝固薬、オピオイド等）についてはプルダウン選択項目を作成し、参照休業期間まで自動入力されるよう作成。

* 中止日数指示からの中止日の自動表示は手術日を含めておりません。
* 休業期間はあくまで参考とし、各疾患の病態や治療手技に応じ主治医で判断ください。

中止薬等指示票 患者提出(印刷)用

ID: 0009900027
氏名: テスト O27

《中止が必要なお薬》

手術や検査を受けていただく際、下記のお薬を中止していただく必要があります。

中止すべきお薬	中止日
オバルモン	2018年10月19日(金) から中止してください。
オグルコ	2018年10月18日(木) から中止してください。

中止薬等指示票の内容を反映

薬の内容がわからない、個人薬が処方された、または変更になった場合は下記へご連絡ください。

【連絡先】福山医療センター 薬剤部 TEL: 084-922-0001(代表) FAX: 084-931-3989(代表)

入院される時は

×この用紙とすべての薬(中止した薬も含む)を持参し、病棟看護部にお渡し下さい。
×お薬手帳も一緒にご持参下さい。

平成30年09月01日 福山医療センター 薬剤部 薬剤師

中止薬等指示票 患者提出(印刷)用

図3 中止薬指示票

科、泌尿器科と徐々に診療科を拡大し順次導入を行っている。PASPORTの構成員は、主治医、看護師、麻酔科医、理学療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学技士、薬剤師からなりそれぞれの担当業務を担っている。

PASPORTにおける薬剤師業務

図2はPASPORTにおける薬剤に関わる業務を抜粋したものである。

1. 薬剤師の初回面談

対象患者は、来院後まず薬剤師外来において薬剤師の初回面談を受ける。薬剤師はお薬手帳や薬剤情

報提供書を元に現在使用中の薬剤の確認を行い、術前中止薬が含まれているかどうかの確認を行っている。紹介患者の場合は地域医療連携室を通じお薬手帳の持参依頼を行っているが、持参されない患者もあり、その場合は保険薬局から使用薬剤の情報を入手することもある。その他アレルギー歴や副作用歴、薬の管理方法や健康食品、市販薬の使用状況についても確認を行っている。なお薬剤師外来で得られたこれらの情報は病棟薬剤師と共有し病棟薬剤師業務の負担軽減化につながっている。

2. 医師による中止薬の指示

薬剤師の報告内容を確認し、医師が中止薬の指示を行う。薬剤師の介入開始にともない、医師の指示を電子カルテ上で確認するツールとして、電子カル

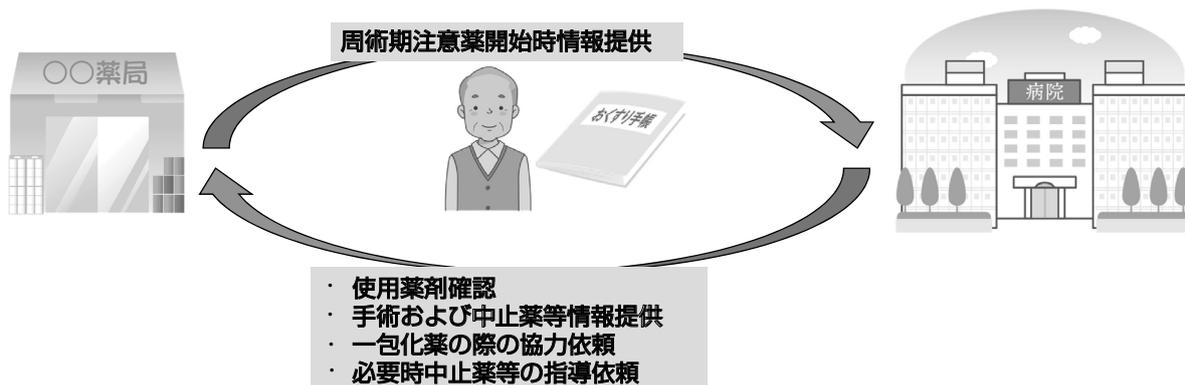


図4 薬薬連携

テシステム（富士通：HOPE EGMAIN-GX[®]）のエクセルチャートの機能を利用し「中止薬指示票」を作成した。2枚のシートで構成されており、中止薬指示票へ医師が入力を行うと、患者説明書に医師の入力内容が反映されるようになっている。

3. 看護師による情報収集等

看護師による情報収集、麻酔・手術のオリエンテーションや生活指導などが実施され、必要時他職種介入が行われる。

4. 薬剤師の2回目介入

最後に、医師の指示をもとに薬剤師が中止薬の説明を行っている。なお当院の場合は薬剤師の面談が手術予定日より1カ月以上前となることもあり、その間に薬剤変更の可能性もあることから、お薬手帳へ中止薬の有無にかかわらず手術予定日と中止薬内容、また保険薬局などの医療関係者に対し周術期に注意や必要な薬剤が開始された際は当院へ連絡いただきたい旨を記載している。また中止薬が一包化されている場合や、認知機能低下患者等の理解力に難がある患者の場合は、必要に応じお薬手帳への記載や電話連絡等によりかかりつけ薬局へ協力依頼を行っている。

5. 看護師による電話連絡

入院前や術前中止薬休薬前には、看護師より体調および薬剤中止状況等の電話による確認を行っている。

薬薬連携

PASPORT稼働にともない、福山市薬剤師会に対

しPASPORTの紹介および協力依頼を行い、会員薬局へ「使用薬の情報提供対応」および「お薬手帳からの医師の指示に基づく中止薬の対応（一包化からの抜き取り対応等）」について周知いただいた。

現在想定している薬薬連携としては、当院から保険薬局に対しては使用薬剤問い合わせ、手術および術前中止薬等の情報提供、一包化薬の際の協力依頼、必要時術前中止薬等の指導依頼を、保険薬局から当院に対しては手術予定日までに周術期に必要な薬剤が開始の際は情報提供いただくことを考えている。しかし、残念ながら保険薬局からの情報提供はほとんど行われておらず認知度はまだまだ低い状況である。そこで薬薬連携の会を2018年9月に立ち上げたため、第一回講演会にて当院の取り組みについて紹介を行い再度協力要請を行ったところである。また、今回PASPORTにおいて、外科、内科、麻酔科、循環器科等の複数の診療科の医師と意見交換を行う機会も得られたことから、再度文献検索や製薬会社からの情報収集を行い院内の周術期注意薬一覧の改訂を行った。今後は病院ホームページや市薬剤師会研修会等で保険薬局への情報提供を行い、協力依頼を行う予定である。

おわりに

外来から入院までの流れは概ね形となってきたため、今後は嚥下機能、認知機能低下にともなう服薬上の問題や腎機能低下等の継続した薬学的介入を要する患者については入院中に得られた情報をかかりつけ薬局へ繋げ退院後もシームレスな薬学的介入が行われるよう退院時指導を介し情報提供を行っていく必要があると考えている。

〈本論文は2018年第72回国立病院総合医学会シンポジウム「地域包括ケアシステムの構築に向けて-病院薬剤師の役割-」において「患者入院支援・周術期管理チームにおける薬剤師の関わり」として発表した内容に加筆したものである。〉

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし。

[文献]

- 1) 日本医療機能評価機構医療事故防止事業部. 術前に中止する薬剤の把握不足 -経口避妊剤-. 医療事故情報収集等事業. 医療安全情報 : No.125 : 2017.